

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成 30 年度 兵庫県農業気象技術情報第 9 号 (3 ~ 4 月情報) について (送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策												
水稲	全 県 共 通	<p>1 ほ場管理の留意点</p> <p>(1) 堆肥及び土づくり肥料を未施用の場合は早急に施用する。</p> <p>(2) ヒメトビウンカ等の越冬虫の密度低下を図るため、本田の耕うん及びあぜ等ほ場周辺の雑草除去を早めに実施する。</p> <p>2 育苗管理の留意点</p> <p>(1) 種子伝染による主要病害虫を防ぐため、種子消毒を徹底して行う。種子消毒を行う際には、以下の点に特に注意する。</p> <p>① 気温変動が大きい時期であるので、水温には十分に注意して行う。</p> <p>② 浸種の場所に留意し、水温は10℃以上を保ち、20℃をこえないように管理する。</p> <p>③ 吹き付け消毒種子の場合は、浸種して最初の2日間は水を交換しない。</p> <p>(2) 温湯種子消毒を行う場合は、以下の点に特に留意する。</p> <p>① 自家採種した種籾は罹病している場合があるので、購入種子を使用する。</p> <p>② 消毒する前に、塩水選または2.2mm目のふるいで健全種子を選別する。</p> <p>③ 水温は60℃、浸漬時間は10分間を厳守する。</p> <p>④ 水温を低下させないように、アミ袋の1/2を目安に種籾を袋詰めし、浸漬カゴに種籾を入れすぎない。(200ℓの温湯に種籾10kgの割合で浸種)</p> <p>⑤ 浸漬直後にアミ袋の中に温湯が素早く行き渡るように、アミ袋を数回上下させる。</p> <p>⑥ 処理後、ただちに種籾を流水中(水道水)で冷却し、速やかに浸種作業に移る。</p> <p>⑦ 処理後に保存する場合は、清潔なシート等に籾を広げて十分に乾燥させる。</p> <p>⑧ 育苗培土は無菌のものを使用し、籾殻などを混入しない。</p> <p>(3) 種子の休眠が深い場合があるので、浸種温度は10℃以上とし、期間を十分にとり、催芽させてから播種する。</p> <p>(4) 育苗時の温度管理は、気温変化の大きい時期であるので、下表を参考に適切に行うこと。なお、緑化期以降は、換気に努め、徒長や苗腐敗の発生を避ける。</p>	<p>対 応 策</p>												
		<p>【育苗期間の 適温(稚苗)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間 昼夜別</th> <th>出芽期間 (2~3日間)</th> <th>緑化期間 (2~3日間)</th> <th>硬化期間 (10~15日間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昼 間</td> <td>30~32℃</td> <td>22~25℃</td> <td>18~20℃</td> </tr> <tr> <td>夜 間</td> <td>30~32℃</td> <td>15~18℃</td> <td>12~15℃</td> </tr> </tbody> </table>	期間 昼夜別	出芽期間 (2~3日間)	緑化期間 (2~3日間)	硬化期間 (10~15日間)	昼 間	30~32℃	22~25℃	18~20℃	夜 間	30~32℃	15~18℃	12~15℃	
期間 昼夜別	出芽期間 (2~3日間)	緑化期間 (2~3日間)	硬化期間 (10~15日間)												
昼 間	30~32℃	22~25℃	18~20℃												
夜 間	30~32℃	15~18℃	12~15℃												
		<p>(5) 平成25年度にQoI耐性のいもち病菌が発生したので、箱施用にQoI剤を使用しない。また、育苗床の周辺に、いもち病の伝染源となる稲わら、籾殻を置かない。</p>													

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
麦	全県共通	<p>1 生育 生育はやや進んでいる。 今後、気温は平年より高いと予想されており、幼穂形成期や出穂期など生育は全般に早まると考えられる。</p> <p>2 病害虫 (1) 開花時期に降雨があると赤かび病の発生が多くなるので注意する。</p> <p>(2) 赤さび病の発生動向に注意する。</p> <p>(3) 昨年、水稻に縞葉枯病が多発した地域は、麦類におけるヒメトビウンカの発生状況に注意する。</p>	<p>1 生育 湿害防止対策として、排水溝や周辺溝の溝さらえを行い、確実に排水口に水が流れるようにする。 第2回追肥（穂肥）は、未施用の場合は早急に施用する。ただし、茎立ちが始まってからの追肥は、倒伏につながるので、施用しない。</p> <p>2 病害虫 (1) 生育状況を把握して、出穂期を予測し、防除計画を立てて適期防除に努める。 開花始めから開花期の薬剤散布は予防効果が高いので、必ず実施する。 （小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システムホームページ参照）</p> <p>(2) 赤さび病は、開花期以降でも発生を認めたら、使用時期・使用回数に留意して早急に防除を行う。発病初期の薬剤散布は効果が高い。</p> <p>(3) 今後の発生情報に注意する。</p>
キャベツ	全県共通	<p>1 生育 (1) 3月以降、気温の上昇とともに生育が急激に進むため、管理作業の適期を逸しやすい。</p> <p>(2) 雑草の生育も早くなり、降雨等により対応が遅れることもあるので注意する。</p> <p>(3) 降雨による滞水は生育不良や病害発生の原因となる。</p> <p>(4) 球の肥大が早くなるため、収穫が遅れると裂球のおそれがある。</p> <p>2 病害虫 今後、気温が高めに推移する場合は、菌核病、黒腐病、アブラムシ類及びネギアザミウマの発生が予想される。</p>	<p>1 生育 (1) 中耕、追肥を遅れないよう適期に行う。降雨がなく、土壌が乾燥している場合は適宜かん水する。 県北では雪がなくなり次第速やかに追肥、中耕、土寄せを行う。</p> <p>(2) 雑草の発生前～初期に中耕を兼ねて除草する。</p> <p>(3) 谷上げ、排水溝の整備等、ほ場排水に努める。</p> <p>(4) 収穫遅れにならないよう、八分結球程度の若どりに努める。</p> <p>2 病害虫 発生の動向を注視し、適期に薬剤散布する。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策																								
果樹	全 県 共 通	<p>1 栽培管理の留意点</p> <p>(1) 凍霜害の発生を防ぐ。</p> <p>① 敷きわらや伸びた草等は地温の上昇を妨げ、夜間は園内の気温低下を助長する。敷きわら等のマルチは、霜害危険期を過ぎてから行き、下草は短く刈り込むか除草する。</p> <p>② 空気や土壌の乾燥は園内の気温低下を助長するので、乾燥が続く場合はかん水を行う。</p> <p>③ 冷気が停滞しやすい園地では、防風ネットのすそを開けて冷気を排出する。</p> <p>(2) 受粉用花粉の確保と人工受粉の徹底</p> <p>① ナシ等の受粉が必要な樹種については、必要量の花粉確保に努める。</p> <p>② 人工受粉は丁寧に徹底して行き、結実の確保に努める。</p> <p>③ 霜害が発生した場合は、残存花への人工受粉を徹底するとともに、果実の状態を観察後、被害果の判定ができるようになってから摘果を実施する。</p> <p>(3) 初期生育の促進</p> <p>① 新梢や新根の順調な生育を図るため、土壌が乾燥している場合にはかん水を行い、養水の吸収を促す。</p> <p>② 根群域の土壌表面を裸地状態にすると地温の上昇が早まり生育の促進に有効である。</p> <p>(4) 積雪による枝折れ等の手当て</p> <p>① 枝裂けや枝折れが生じた場合は早期に主枝の突き上げや損傷部の切除を行う。</p> <p>② 損傷部分がささくれた状態では、癒合が遅く枯れ込みやすいので、ノコギリやノミで断面をきれいにした上で、癒合剤やテープを巻くなどの保護を行う。</p> <p>※樹種別の留意点と対応策について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>樹 種</th> <th>留意点</th> <th>対 応 策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イチジク</td> <td>春先の低温被害（凍害による発芽不良や発芽のバラツキ）に留意する。</td> <td>晩霜害の危険がある地域は、わら等の防寒資材の除去は早すぎないようにする。萌芽が進んで防寒資材の除去が必要な場合も、晩霜害の恐れがある場合は、わらを主枝上面だけでも残し、被害の軽減を図る。</td> </tr> <tr> <td>クリ</td> <td>春先の低温被害（凍害による幼木や枝の枯死等）に留意する。</td> <td>枯死枝は、健全な部位まで切り戻す。台木から出る芽は早めにかきとる。</td> </tr> <tr> <td>カンキツ類</td> <td>気温上昇による生育の前進や春先の低温被害に留意する。</td> <td>萌芽、発芽、開花時期をよく観察し、適期管理や適期防除に努める。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>気温上昇による生育の前進や春先の低温被害に留意する。</td> <td>萌芽時期をよく観察し、適期管理や適期防除に努める。敷きわらは園内の気温上昇を妨げるので早くならないよう努める。芽かきは花房を確認してから行う。</td> </tr> <tr> <td>ナシ</td> <td>春先の低温被害（開花期の低温による着果不良）に留意する。</td> <td>丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は、摘果時に着果量確保に努める。</td> </tr> <tr> <td>サンショウ</td> <td>春先の低温被害（樹や枝の枯死等）に留意する。</td> <td>剪定は、厳寒期を過ぎてから行う。切り口が大きいものは癒合剤で保護する。枯死枝は健全な部位まで切り戻す。</td> </tr> <tr> <td>モモ</td> <td>春先の低温被害（凍害による芽や枝の枯死、開花期の低温による着果不良）に留意する。</td> <td>丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は摘果時に着果量確保に努める。枯死枝は健全な部分まで切り戻す。</td> </tr> </tbody> </table>	樹 種	留意点	対 応 策	イチジク	春先の低温被害（凍害による発芽不良や発芽のバラツキ）に留意する。	晩霜害の危険がある地域は、わら等の防寒資材の除去は早すぎないようにする。萌芽が進んで防寒資材の除去が必要な場合も、晩霜害の恐れがある場合は、わらを主枝上面だけでも残し、被害の軽減を図る。	クリ	春先の低温被害（凍害による幼木や枝の枯死等）に留意する。	枯死枝は、健全な部位まで切り戻す。台木から出る芽は早めにかきとる。	カンキツ類	気温上昇による生育の前進や春先の低温被害に留意する。	萌芽、発芽、開花時期をよく観察し、適期管理や適期防除に努める。	ブドウ	気温上昇による生育の前進や春先の低温被害に留意する。	萌芽時期をよく観察し、適期管理や適期防除に努める。敷きわらは園内の気温上昇を妨げるので早くならないよう努める。芽かきは花房を確認してから行う。	ナシ	春先の低温被害（開花期の低温による着果不良）に留意する。	丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は、摘果時に着果量確保に努める。	サンショウ	春先の低温被害（樹や枝の枯死等）に留意する。	剪定は、厳寒期を過ぎてから行う。切り口が大きいものは癒合剤で保護する。枯死枝は健全な部位まで切り戻す。	モモ	春先の低温被害（凍害による芽や枝の枯死、開花期の低温による着果不良）に留意する。	丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は摘果時に着果量確保に努める。枯死枝は健全な部分まで切り戻す。	
		樹 種	留意点	対 応 策																							
イチジク	春先の低温被害（凍害による発芽不良や発芽のバラツキ）に留意する。	晩霜害の危険がある地域は、わら等の防寒資材の除去は早すぎないようにする。萌芽が進んで防寒資材の除去が必要な場合も、晩霜害の恐れがある場合は、わらを主枝上面だけでも残し、被害の軽減を図る。																									
クリ	春先の低温被害（凍害による幼木や枝の枯死等）に留意する。	枯死枝は、健全な部位まで切り戻す。台木から出る芽は早めにかきとる。																									
カンキツ類	気温上昇による生育の前進や春先の低温被害に留意する。	萌芽、発芽、開花時期をよく観察し、適期管理や適期防除に努める。																									
ブドウ	気温上昇による生育の前進や春先の低温被害に留意する。	萌芽時期をよく観察し、適期管理や適期防除に努める。敷きわらは園内の気温上昇を妨げるので早くならないよう努める。芽かきは花房を確認してから行う。																									
ナシ	春先の低温被害（開花期の低温による着果不良）に留意する。	丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は、摘果時に着果量確保に努める。																									
サンショウ	春先の低温被害（樹や枝の枯死等）に留意する。	剪定は、厳寒期を過ぎてから行う。切り口が大きいものは癒合剤で保護する。枯死枝は健全な部位まで切り戻す。																									
モモ	春先の低温被害（凍害による芽や枝の枯死、開花期の低温による着果不良）に留意する。	丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は摘果時に着果量確保に努める。枯死枝は健全な部分まで切り戻す。																									
		<p>2 病害虫 越冬病害虫の密度を下げる。</p>	<p>2 病害虫 剪定枝、古い誘引ヒモは早めに園外に持ち出し処分する。</p>																								

◎水稲・麦の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。
※本情報は、2月25日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（2月23日～3月22日）

[平成31年2月21日 大阪管区気象台発表]

【概要】

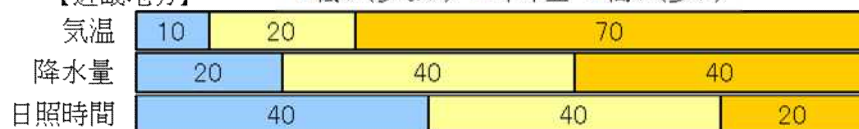
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率50%です。

【確率】

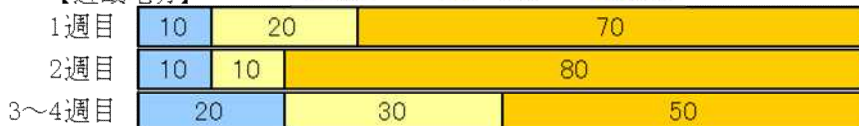
○気温、降水量及び日照時間

【近畿地方】 □低い(少ない) □平年並 □高い(多い) (単位:%)



○各週の気温経過

【近畿地方】 □低い □平年並 □高い (単位:%)



(2) 近畿地方の向こう3か月予報（3月～5月）

[平成31年2月25日 大阪管区気象台発表]

【概要】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。この期間の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

3月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

4月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

【確率】

○気温

【近畿地方】	□低い	□平年並	□高い	(単位: %)
3か月	10	30	60	
3月	10	30	60	
4月	20	30	50	
5月	30	30	40	

○降水量

【近畿地方】	□少ない	□平年並	□多い	(単位: %)
3か月	20	40	40	
3月	20	40	40	
4月	20	40	40	
5月	30	40	30	

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981~2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」 <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bo.jo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html
- ・「Web 水稻生育予測システム」 <http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稻生育予測」 <http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>
- ・小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム
http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2011/180a0_01_33.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711(代表)
農産班:主作・機械担当 内線 4074
農産班:野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)